

令和2年度重点取組事項 「親和的な学級 100%の達成」について

- 子どもたちの学力を向上させる基盤は望ましい学習集団の形成にあり、本年度の重点取組事項に位置付けて、全市的に取組を推進しています。
- 本市においては、児童生徒個々の意欲や満足度・学級集団の状況、人間関係を営むスキルの習得を診断し、よりよい学級づくり・学校づくりに活用し各学級集団の質を向上させるとともに、学級崩壊の予防やいじめ・不登校の未然防止に役立てたり、標準学力検査との相関から支援の必要な児童生徒を把握して実際の指導に生かし、学力向上に役立てることを目的として、年に2回（中3は1回）ハイパーQU検査を実施しています。
- ハイパーQU検査は、学校生活における児童個々の満足感、および学級集団の状態を質問紙によって測定するものです。

児童生徒個々の学級生活における満足感や、学校生活での意欲の状態

学級集団の雰囲気や成熟の状態

学級や学校生活における満足感や意欲に関しての児童生徒の学級内での相対的位置
集団形成に必要な対人関係を営むためのスキルの程度

などの情報を得ることができます。

- 親和的な学級とは、学級の満足度が高く、居心地のよい学級であることを指します。所属する学級集団を居心地がよいと感じるのは、自分が級友から受け入れられ、考え方や感情が大切にされていると感じる トラブルやいじめなどの不安がなくリラックスできている、という二つが満たされているときです。
- の視点を得点化したものが「承認得点」、 を得点化したものが「被侵害得点」です。

(承認得点の質問例)

あなたが何かしようとするとき、クラスの人たちは協力してくれたり、応援してくれたりすると思いますか。

(被侵害得点の質問例)

あなたはクラスの人にばかにされるなどして、クラスにいたくないと思うことがありますか。

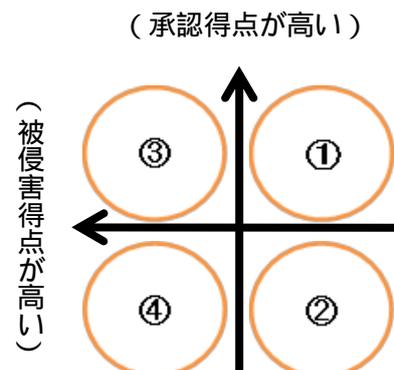
「承認得点」と「被侵害得点」を座標軸とした座標上のどこにプロットされているかによって児童生徒を理解します。

学級生活満足群～学級内に自分の居場所があり、学校生活を意欲的に送っている

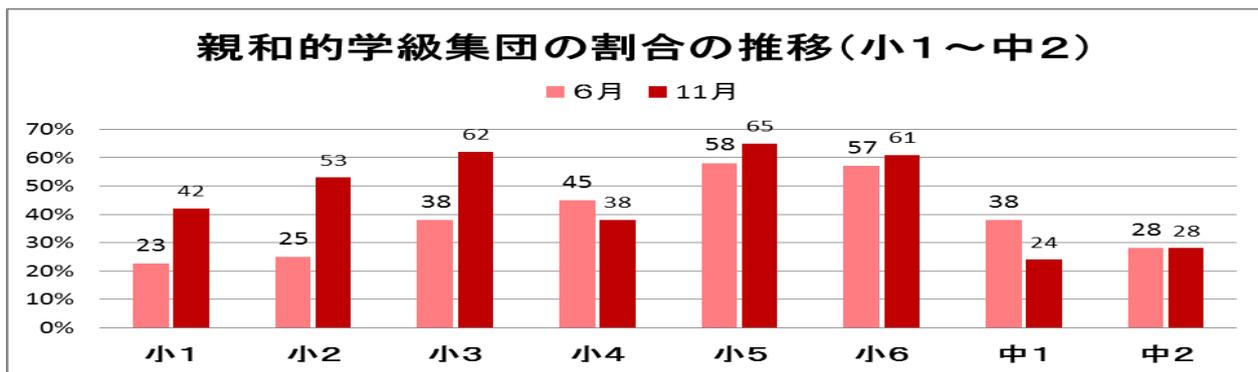
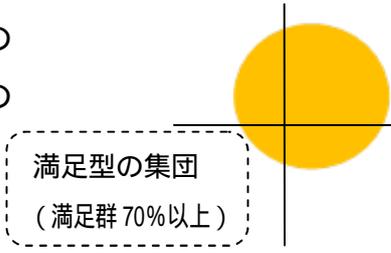
非承認群～いじめや悪ふざけを受けてはいないが、学級内で認められることが少ない

侵害行為認知群～いじめや悪ふざけを受けているか、トラブルがある可能性が高い

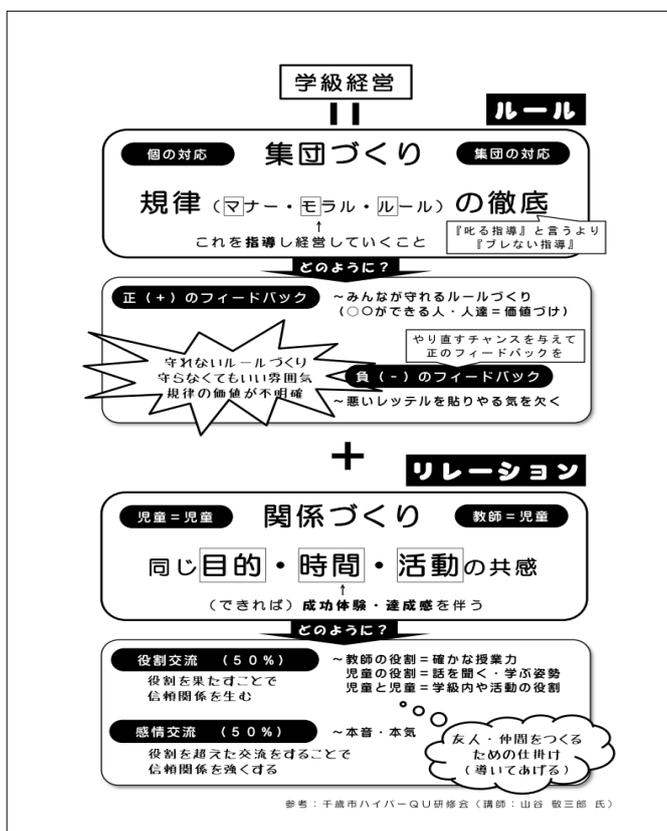
学級生活不満足群～耐えられないいじめや悪ふざけを受けているか、非常に不安傾向が強い



- 一人一人の子どもが、被侵害得点、承認得点から4つの群のいずれかにプロットされ、学級内の分布のようすから、の満足群が70%以上の場合、満足型の集団としています。
- 「親和的(満足型)学級集団」の出現は小学校で4～6割程度、中学校で2～3割程度となっています。6月調査と比較すると、小学校では6学年中5学年で増加しており、学年・学級経営の改善が進んでいます。中学校は1年生が低下し、2年生が同率となっています。今後も「親和的(満足型)学級集団」を目指し、指導の一層の充実が求められます。



- 各学校では、実施と活用について計画を策定し、診断結果をもとに児童生徒個々の指導や学級・学年・学校全体の指導の改善に生かしています。支援の必要な学級や児童生徒について校内研修に位置づけるなどして共通理解を図っています。
- また、年2回実施することを踏まえ、1回目の診断から2回目実施までの期間における具体的な指導を確実にしない、2回目の診断によって得られる変化をもとに教育実践の効果を評価するとともに今後の取組に生かしています。
- 教育委員会としては、市全体の傾向について分析し、校長会議・教頭会議等で全体の傾向を周知し、調査結果の活用について、学校訪問等を活用して、指導・助言を行っています。

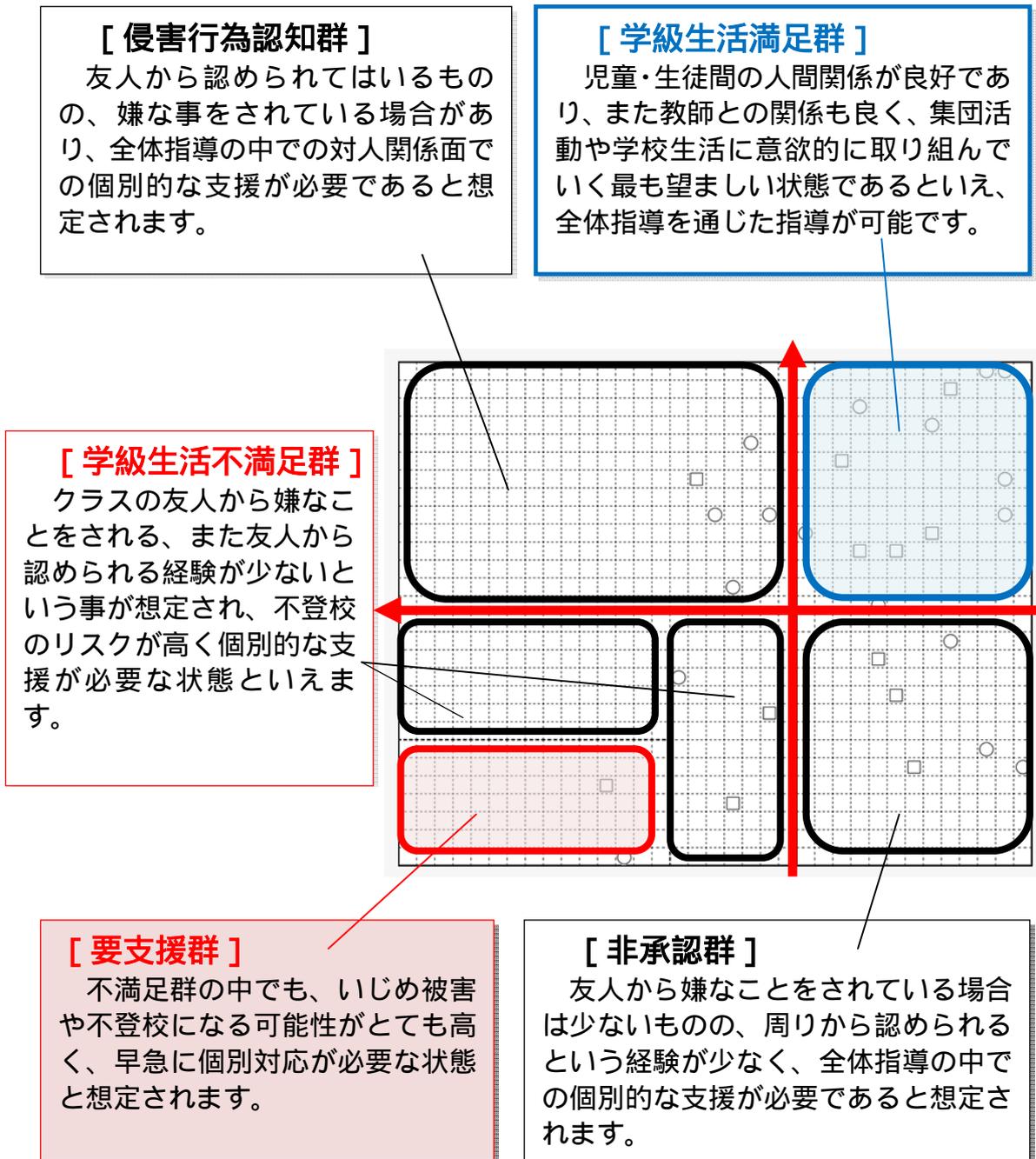


縦軸 [承認得点]

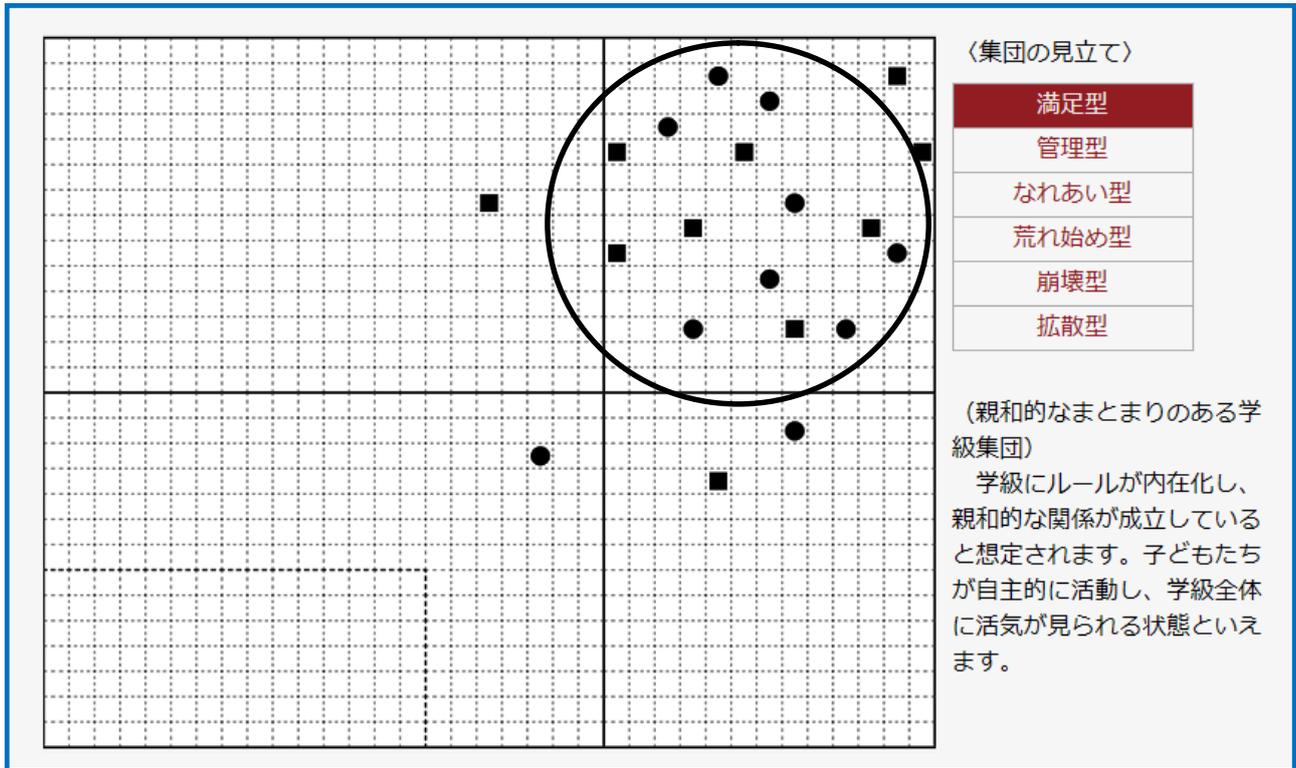
子ども達の存在や行動が教師や友人等から認められているか

横軸 [被侵害得点]

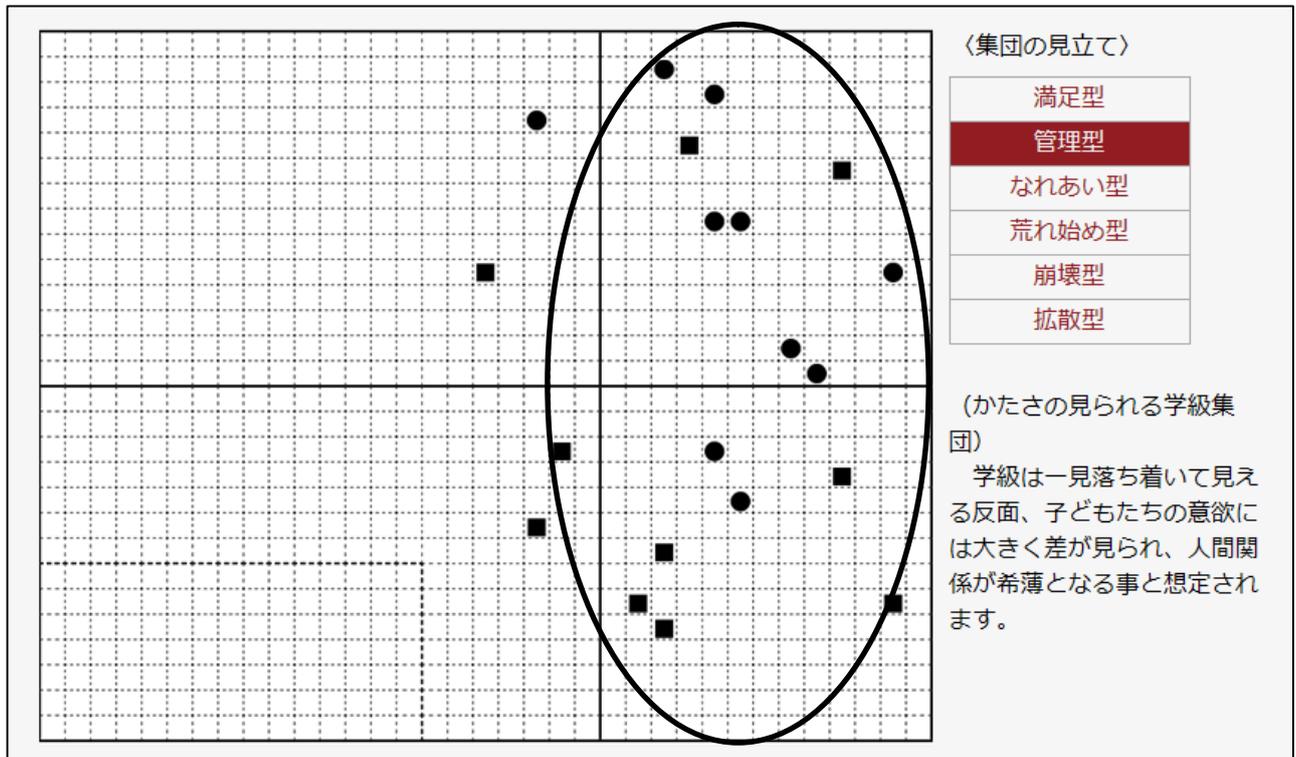
不適応感を覚えたり、いじめや冷やかし等を受けたりしていないか



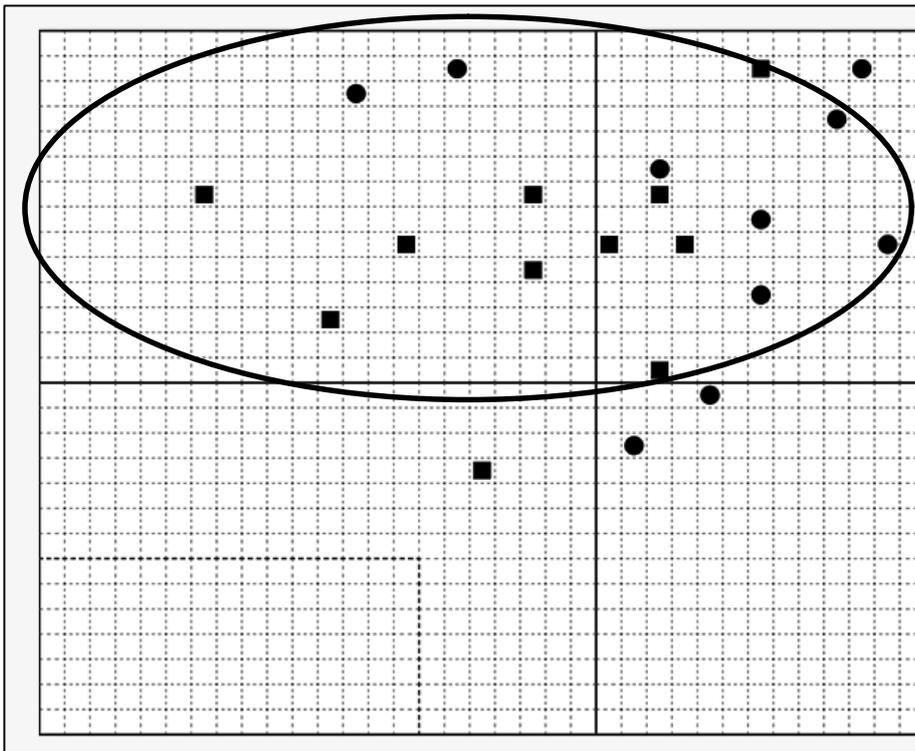
[満足型]



[管理型]



[なれあい型]



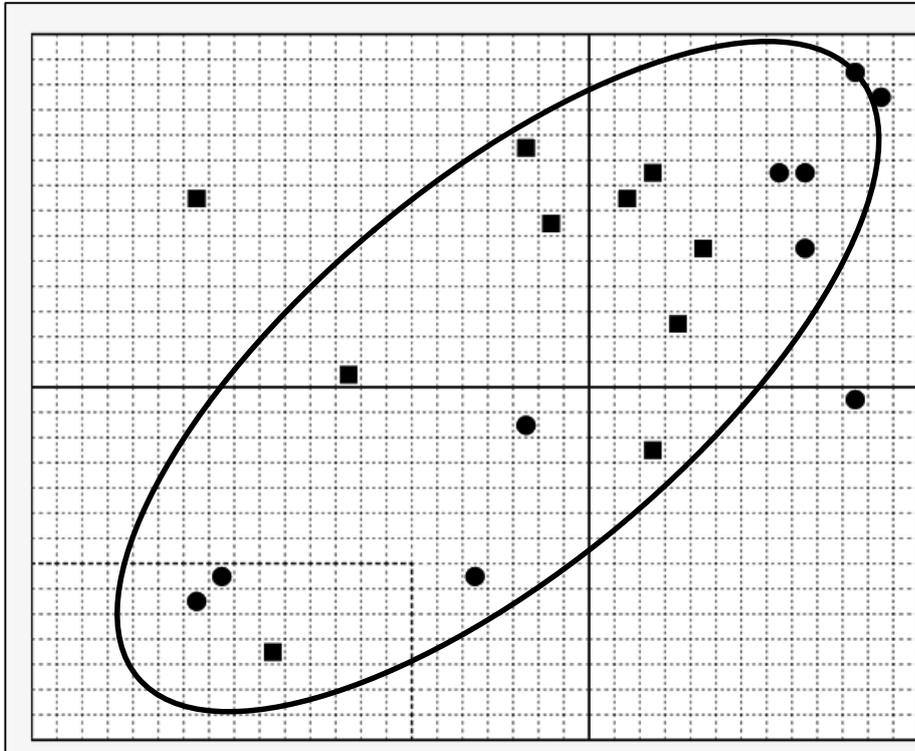
〈集団の見立て〉

満足型
管理型
なれあい型
荒れ始め型
崩壊型
拡散型

（ゆるみの見られる学級集団）

学級は一見のびのびしている様に見える反面、学級のルールが低下している事が想定されます。

[荒れ始め型]



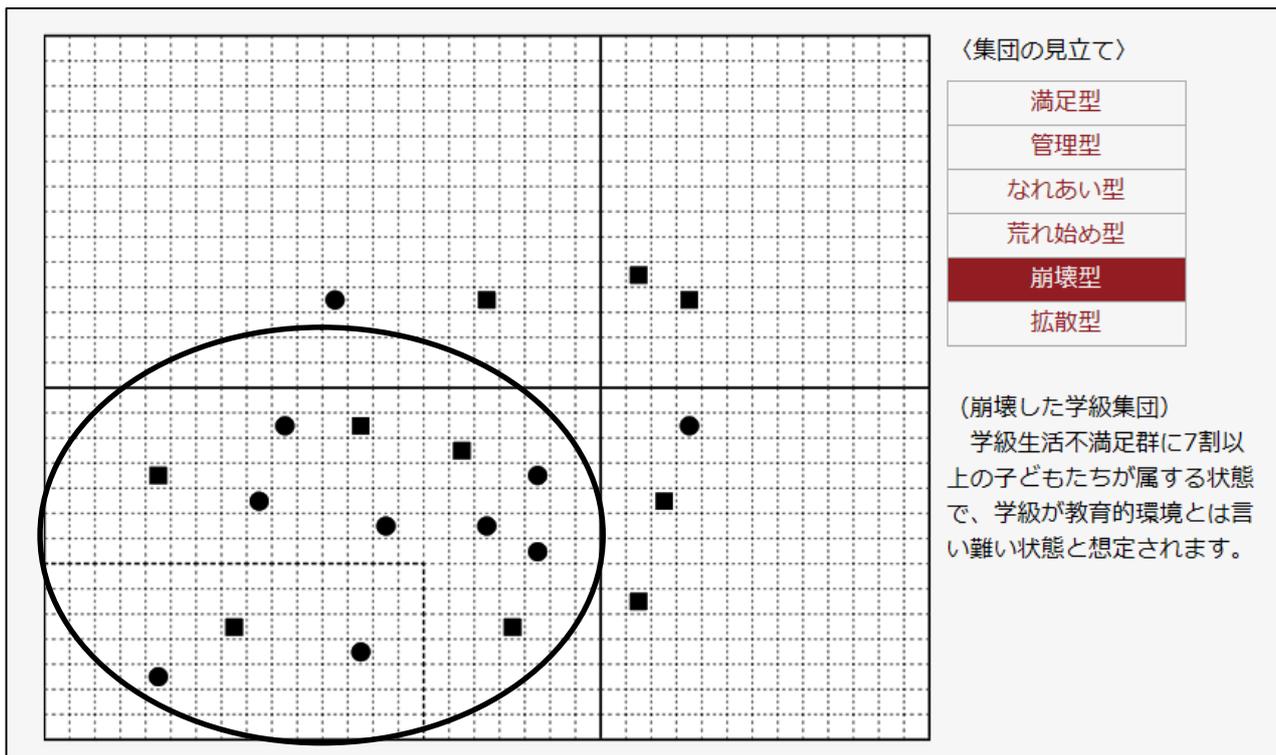
〈集団の見立て〉

満足型
管理型
なれあい型
荒れ始め型
崩壊型
拡散型

（荒れ始めの学級集団）

管理・なれあい型の状態で具体的な対応がなされないと出現する事が想定されます。学級にあったプラス面が徐々に喪失していき、教師はリーダーシップを発揮する事が徐々に難しくなり、子どもたちの間に攻撃性が目立ち始める状態といえます。

[崩壊型]



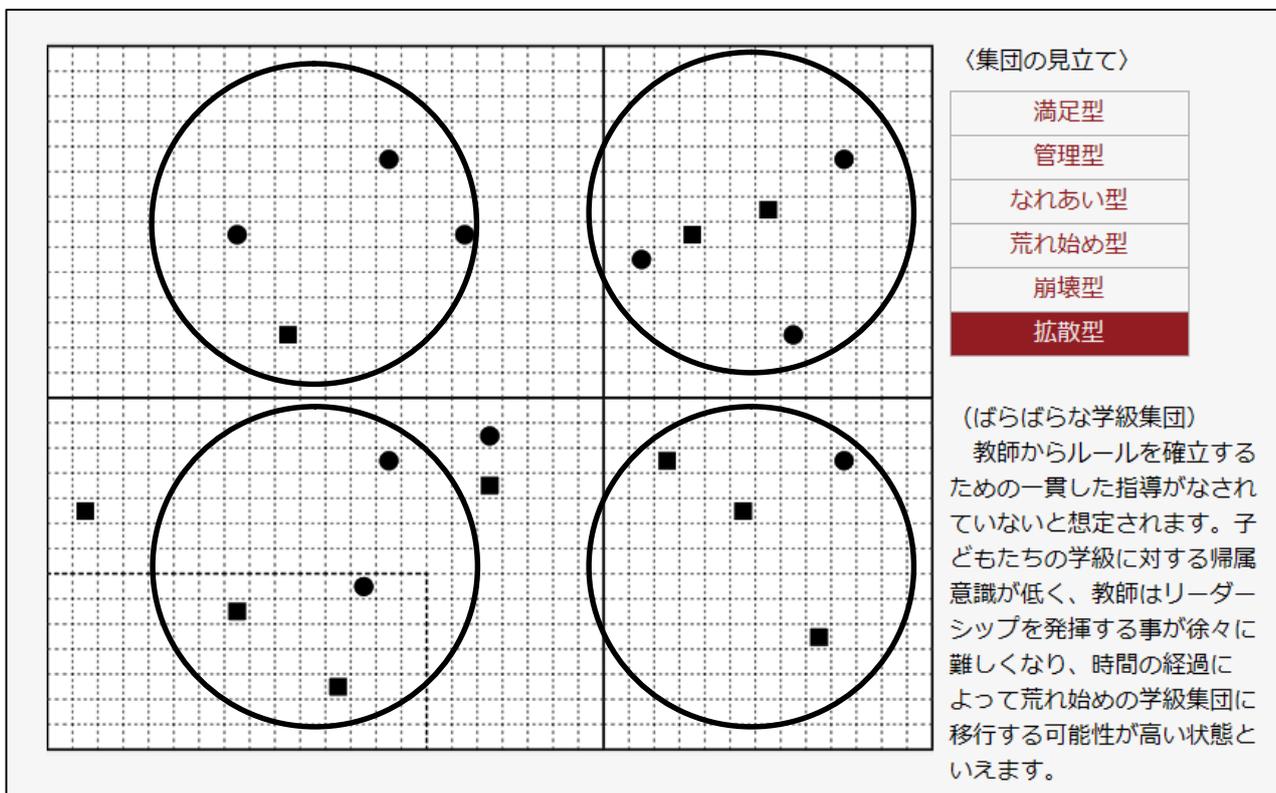
〈集団の見立て〉

満足型
管理型
なれあい型
荒れ始め型
崩壊型
拡散型

(崩壊した学級集団)

学級生活不満足群に7割以上の子どもたちが属する状態で、学級が教育的環境とは言い難い状態と想定されます。

[拡散型]



〈集団の見立て〉

満足型
管理型
なれあい型
荒れ始め型
崩壊型
拡散型

(ばらばらな学級集団)

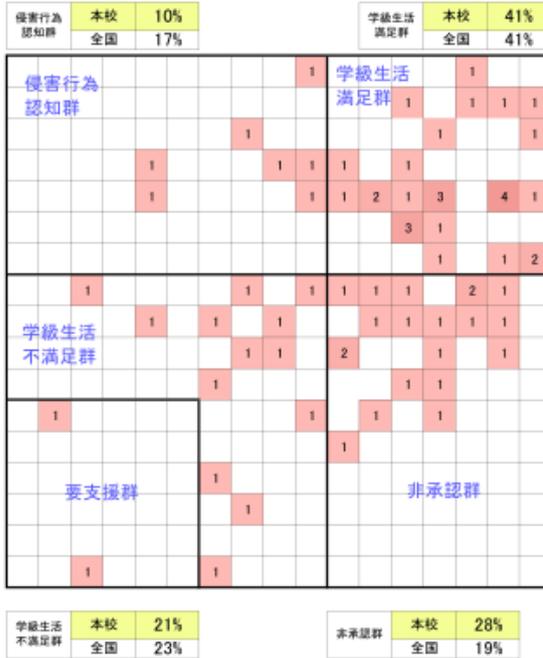
教師からルールを確立するための一貫した指導がなされていないと想定されます。子どもたちの学級に対する帰属意識が低く、教師はリーダーシップを発揮する事が徐々に難しくなり、時間の経過によって荒れ始めの学級集団に移行する可能性が高い状態といえます。

(資料：学年別の学級満足度尺度を一覧にした事例)

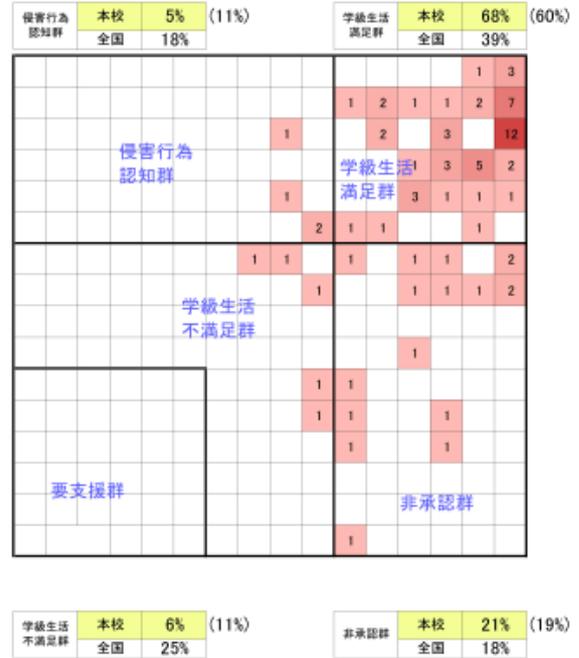
hyper-QUの結果

学年別 学級満足度尺度

3年生

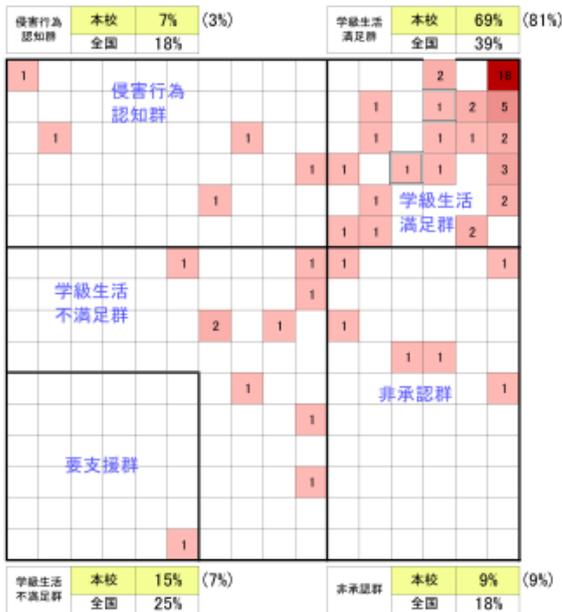


4年生

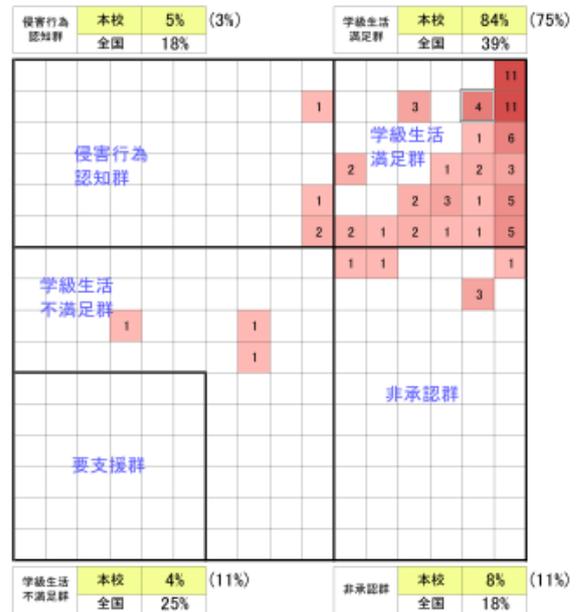


※()は前回の数値

5年生



6年生



- 学級生活満足群…学級内に自分の居場所があり、学校生活を意欲的に送っている児童
- 侵害行為認知群…いじめや悪ふざけを受けているか、他の児童とトラブルがある可能性が高い児童
- 非承認群…いじめや悪ふざけを受けてはいないが、学級内で認められることが少ない児童
- 学級不生活満足群…耐えられないいじめや悪ふざけを受けているか、非常に不安傾向が強い児童 要支援群の児童はその傾向がさらに強い